

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム【様式例】

学校番号：34505

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

「学ぶ力」	
実 態	課 題
<p>成 果</p> <p>◇知識を理解することは得意だが、表現や発信することは苦手と感じる生徒が多いという実態から、自分の意見や考えを他社に伝える場面を積極的に取り入れた。経年変化を見ると、発表を苦手と感じる生徒が減少傾向にある。</p> <p>◇キャリア学習の充実を図ることで、将来の見通しを疑似体験したり、自分事として考えたりする場を創設することができ、「学ぶ力」育成につながった。</p> <p>◇「総合的な学習の時間」のカリキュラムを再編し、大きな成果を上げた。</p>	<p>課 題</p> <p>◇生徒アンケートから、「知識・技能」は生徒自身が向上を実感している反面、「思考力・判断力・表現力」は向上を実感できるほどには至っていない。</p> <p>◇見通しをもって生活できている生徒とそうではない生徒の2極化が顕著である。手帳の活用を導入して3年が経過したので、取組ついて再度見直し、よりこうかてきな運用をしていくことで、生徒の見通しある学習活動、キャリア形成につなげたい。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇「総合的な学習の時間」において、学習成果の発表を他学年との交流の場として設定するなど、学年の枠を超えた生徒同士での相互評価の場を増やし、自己有用感の高まりに努めている。また、適切な自己評価を行えるような指導と評価の一体化を目指すとともに、学校全体として取り組んでいくことを重視する。</p> <p>◇中学校区での小中合同研修会の取組の充実を図り、義務教育9年間を見通した教育課程の改善を進めている。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

エージェンシー概念に基づいた探求的な活動とその資質・能力

取 組	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>(1) 全教職員が、ファシリテーターとしての役割を理解し、実践につなげる研修・研鑽を重ねる。</p> <p>(2) 指導と評価の一体化に重点を置き、教職員全体での共通理解を深めたうえで見通しをもった計画を立てる。</p> <p>→興味関心を引き出すイントロダクション</p> <p>→個別探求と協働探求を適切に設定し、失敗を失敗ととらえない工夫や挑戦が確保される場を提供</p>	<p>①よりよい学級・学年を築くための活動を充実</p> <p>→学級・学年の様々な課題を取り上げ、適切な場で課題克服の計画や手立てを検討し、実践する。</p> <p>→行事活動を通して、健全な人間関係の構築と目標を設定しながら振り返りを主体的に行う機会を設定する。</p> <p>②生徒会を中心とした9年間を通した自治的な活動の連続性</p> <p>→生徒会・児童会によるリモート交流の実施。小学生の中学校訪問の実施。(合唱交流会、中学校紹介など)</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について		
<p>◇日常におけるクロムブックの活用（クラスルーム、ミライシード など）</p> <p>◇総合的な学習の時間の学習活動（地域調査活動、キャリア学習『みらくエ』）における事前調査活動及び Google スライドによるまとめ活動</p> <p>◇生徒が自らの学習成果物を自管理できる Google スプレッドシートの作成と活用に向けた教科での指導</p>		

<本プログラムの実行に向けて>

